

三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成22年度第3四半期決算ハイライト

平成23年2月3日

● 損益サマリー	2
● B/Sサマリー	3
● 貸出金・預金	4
● 国内預貸金利回り	5
● 貸出資産の状況	6
● 保有有価証券の状況	7

＜本資料における計数の定義＞

連結	：	三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
2行合算	：	三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

● 業務純益

- 業務粗利益は金利低下や貸出金減少に伴う資金利益減少の一方、債券売却損益等市場関連収益の大幅な改善により増加
- 営業費は引続きグループワイドな経費削減の取り組みの進展により減少。経費率も50%台半ばまで改善
- 以上の結果、実質業務純益は増加

● 与信関係費用総額

- 企業倒産の減少を背景に、貸倒引当金繰入額の負担が減少し、大幅に改善

● 株式等関係損益

- 売却損益が減少した一方、株式等償却負担も低位にとどまり、前年同期並み

● 四半期純利益

- 以上の結果、四半期純利益は大幅に増加1株当り利益、ROEとも大きく改善

〈連結P/L〉

(単位:億円)

	21年3Q	22年3Q	増減
1 連結業務粗利益(信託勘定償却前)	26,898	27,325	426
2 資金利益	16,511	14,964	▲ 1,546
3 信託報酬+役員取引等利益	7,934	7,792	▲ 142
4 特定取引利益+その他業務利益	2,452	4,567	2,115
5 うち国債等債券関係損益	630	2,141	1,511
6 営業費	15,640	15,118	▲ 521
7 経費率	58.1%	55.3%	▲ 2.8%
8 連結業務純益	11,258	12,206	948
9 与信関係費用 ^{*1}	▲ 6,277	▲ 2,549	3,728
10 株式等関係損益	▲ 200	▲ 238	▲ 37
11 その他の臨時損益	▲ 1,219	▲ 1,057	161
12 経常利益	3,560	8,361	4,801
13 特別損益	89	198	108
14 法人税等合計	986	2,778	1,792
15 四半期純利益	2,170	5,518	3,347
16 与信関係費用総額 ^{*2}	▲ 6,277	▲ 2,488	3,789
17 うち2行合算	▲ 3,137	▲ 720	2,416

*1 与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益)

*2 与信関係費用+貸倒引当金戻入益+偶発損失引当金戻入益(与信関連)
なお、償却債権取立益を含めると▲2,015億円(前年同期比3,855億円)

(単位:円)

18 1株当たり利益	17.47	38.39	20.92
19 連結ROE ^{*3}	3.63%	8.75%	5.12%

*3

(四半期純利益×4÷3)－非転換型優先株式年間配当相当額

{(期首株主資本合計－期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定) ×100
+(期末株主資本合計－期末発行済非転換型優先株式数×払込金額+期末為替換算調整勘定)}÷2

●貸出金

- 資金需要の低迷等を主因に国内法人貸出、海外貸出を中心に22年9月末比減少

●有価証券

- 国内株式は増加の一方、国債、外国債券を中心に22年9月末比減少

●預金

- 個人預金は引き続き増加も、国内法人預金を主因に22年9月末比減少

●純資産

- 株主資本は増加の一方、評価・換算差額等が減少し、22年9月末比減少

●開示債権

- 開示債権の減少により、開示債権比率は22年9月末比改善

●その他有価証券評価損益

- 国内株式の評価益は改善するも、国債、外国債券を中心に22年9月末比悪化

(単位:億円)

〈連結B/S〉		22年3月末	22年9月末	22年12月末
1	資産の部合計	2,041,069	2,063,808	2,026,423
2	貸出金(銀行勘定+信託勘定)	850,359	793,971	784,482
3	[貸出金(銀行勘定)]	[848,806]	[792,544]	[783,022]
4	うち国内法人貸出*1	477,719	435,626	432,562
5	うち住宅ローン*1	174,673	174,172	173,358
6	うち海外貸出*2	166,517	156,122	151,856
7	有価証券(銀行勘定)	639,644	700,531	654,098
8	うち国債	397,253	435,416	409,861
9	負債の部合計	1,928,074	1,950,489	1,913,701
10	預金	1,238,919	1,222,687	1,187,588
11	うち個人預金(国内店)	630,453	632,907	644,289
12	純資産の部合計	112,994	113,319	112,721
13	国内預貸金利回り差 (2行合算)	(21年下期) 1.31%	(22年上期) 1.29%	(22年3Q) 1.31%
14	金融再生法開示債権*1	13,487	14,159	13,648
15	開示債権比率*1	1.50%	1.69%	1.64%
16	その他有価証券評価損益	8,127	6,973	5,114

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

貸出金・預金

【連結】



●連結貸出金残高78.4兆円
(22/9末比▲0.9兆円)

<22/9末比増減の主要因>

- 国内法人貸出 ▲0.3兆円
- 海外貸出*1 ▲0.4兆円

*1 海外支店+ユニオンバンクカル・コーポレーション+BTMU (中国)

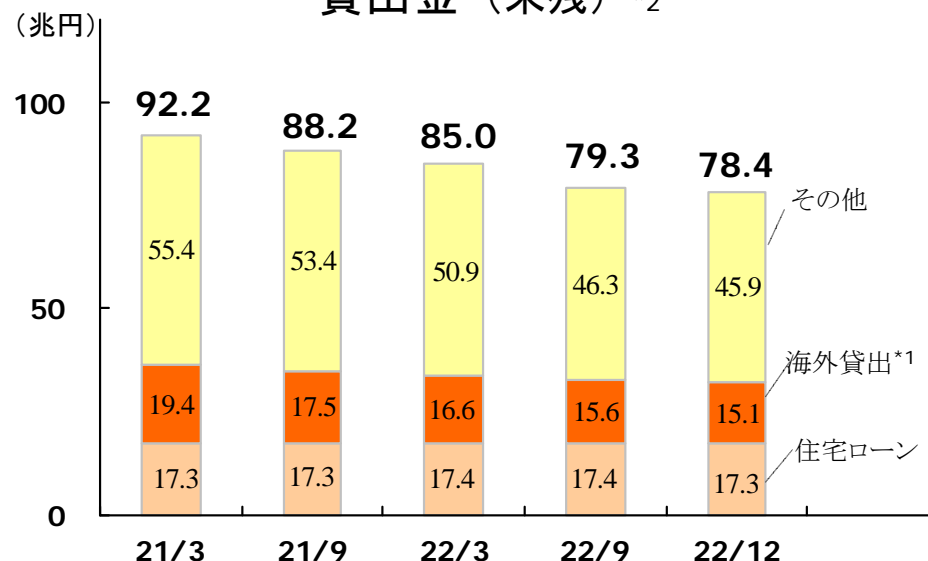
*2 銀行勘定+信託勘定

●連結預金残高118.7兆円
(22/9末比▲3.5兆円)

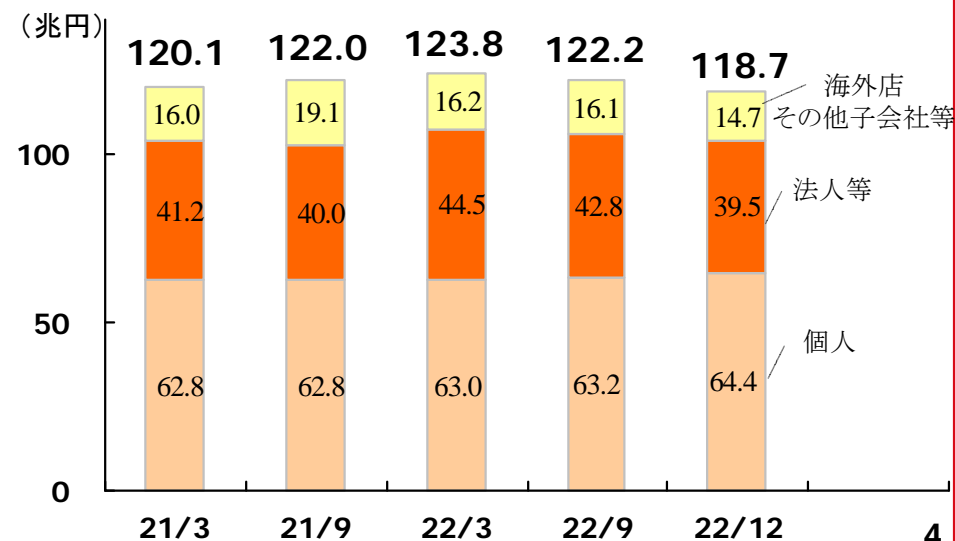
<22/9末比増減の主要因>

- 個人預金 +1.1兆円
- 法人等預金 ▲3.2兆円
- 海外店預金 ▲0.8兆円

貸出金 (末残) *2

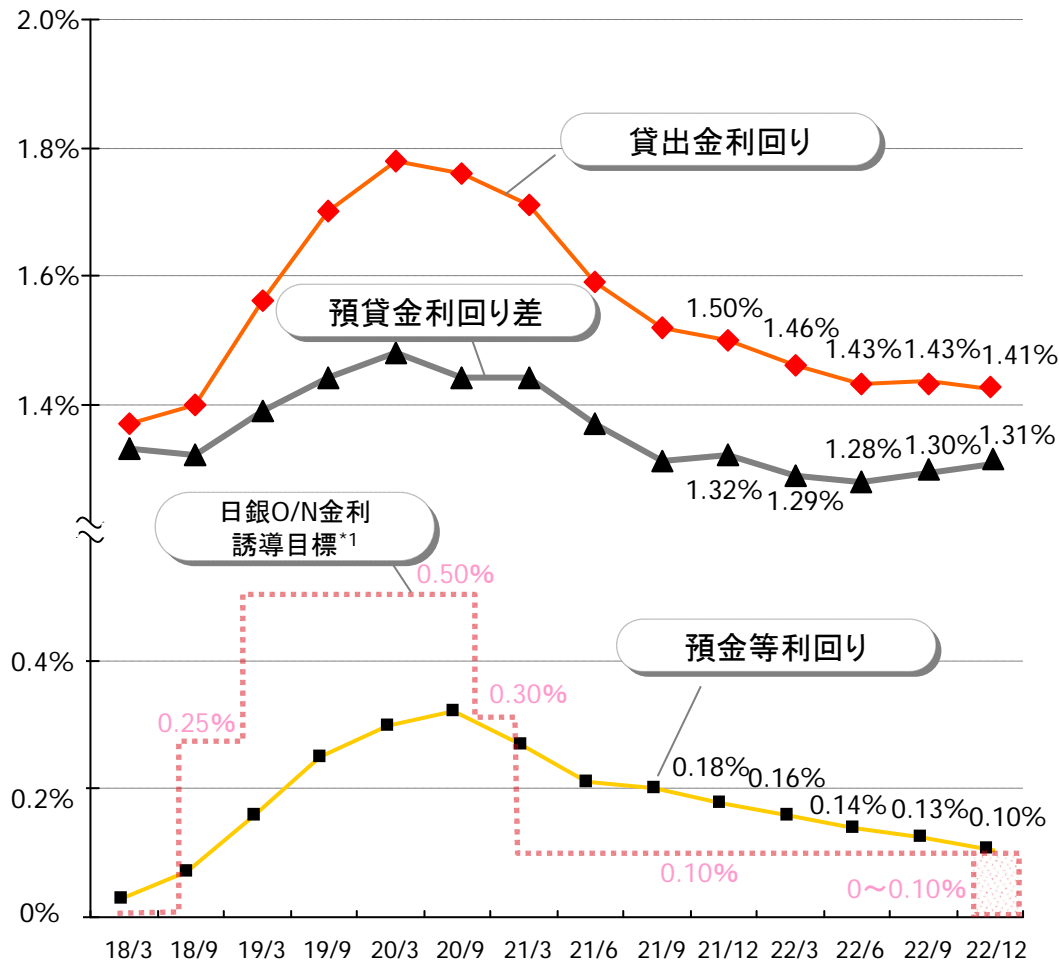


預金 (末残)



●22年10-12月期の預貸金利回り差は1.31%と前四半期比わずかながら上昇

国内預貸金利回りの推移



【金利改定状況】

- 20年11月4日
普通預金金利 0.200% ⇒ 0.120%
- 20年11月20日
短期プライムレート 1.875% ⇒ 1.675%
- 20年12月22日
普通預金金利 0.120% ⇒ 0.040%
- 21年1月13日
短期プライムレート 1.675% ⇒ 1.475%
- 21年4月1日
新規住宅ローン変動金利
⇒3月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更
- 21年7月1日
既存住宅ローン変動金利
⇒4月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更
- 22年9月6日
普通預金金利 0.040% ⇒ 0.020%

*1 量的緩和時は無担保コールレートO/N市場金利。量的緩和終了後は無担保コールレートO/N誘導目標

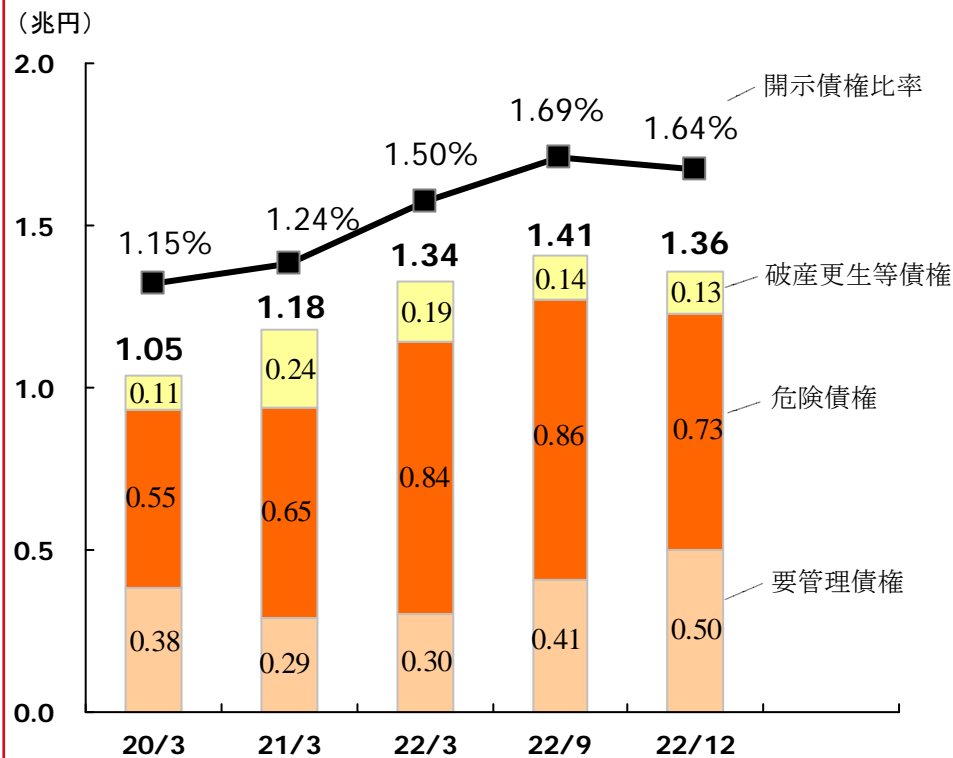
貸出資産の状況

【連結・2行合算】

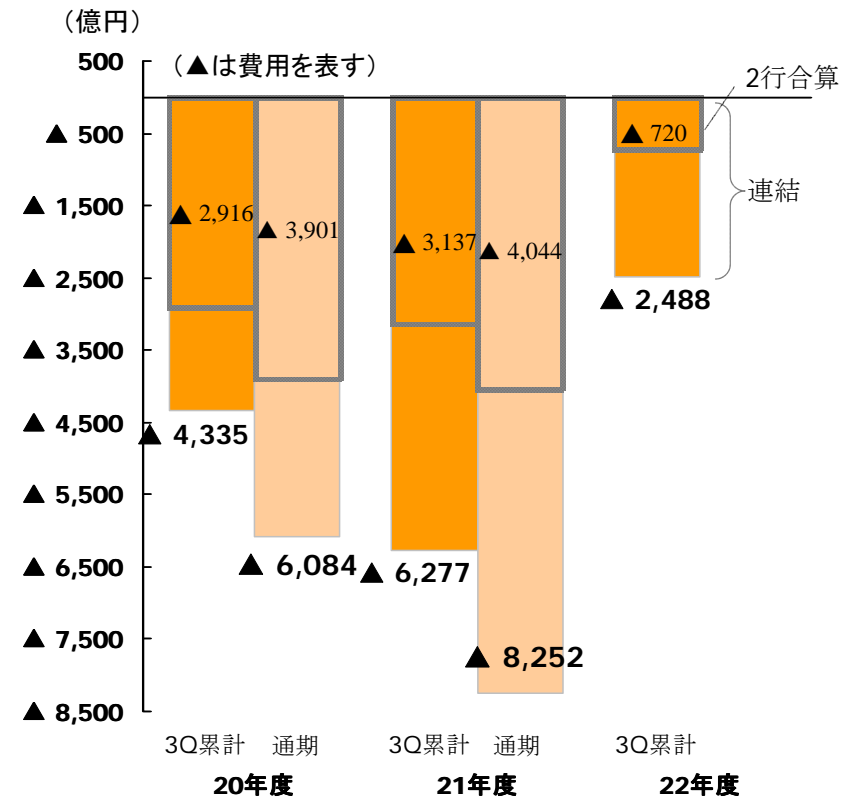


- 危険債権の減少等により、開示債権比率は22年9月末比0.04ポイント改善し1.64%
- 与信関係費用総額は2行合算で720億円、連結では2,488億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(2行合算)



与信関係費用総額



保有有価証券の状況

【連結】



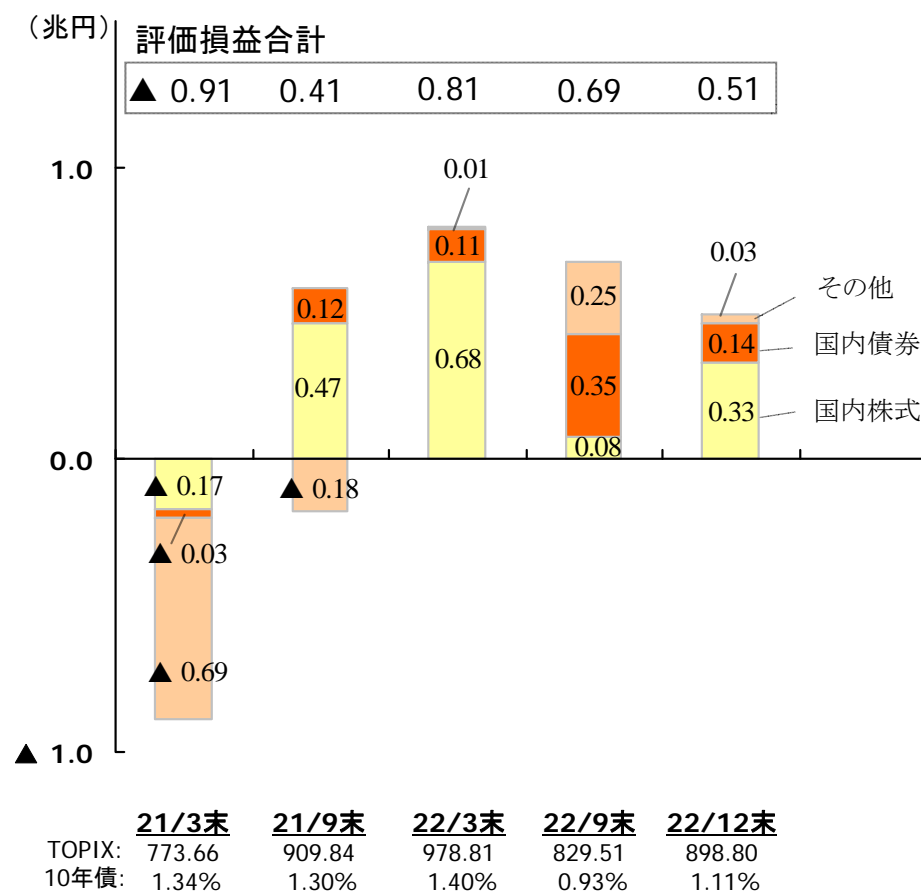
- その他有価証券全体の評価損益は22年9月末比1,859億円減少。
国債、外国債券の評価損益は悪化した一方、国内株式の評価損益が改善

その他有価証券(時価あり)の内訳

(単位:億円)

	22年12月末残高		評価損益	
		22/9末比		22/9末比
1 合計	616,203	▲ 47,201	5,114	▲ 1,859
2 国内株式	37,294	1,914	3,308	2,429
3 国内債券	442,486	▲ 26,479	1,409	▲ 2,127
4 国債	400,388	▲ 25,254	817	▲ 1,978
5 その他	136,422	▲ 22,636	396	▲ 2,161
6 外国株式	2,691	72	717	74
7 外国債券	115,492	▲ 23,822	412	▲ 2,376
8 その他	18,238	1,112	▲ 734	140

その他有価証券評価損益の推移



本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。